

第 21 回横須賀市環境審議会温暖化対策推進部会 議事録

1 日 時

令和 7 年 8 月 4 日（月） 14 時 00 分から 16 時 00 分まで

2 場 所

横須賀市役所消防局庁舎 3 階 消防第 3 会議室（W e b 併用）

3 出席者

（1）環境審議会温暖化対策推進部会委員（7 名）

松本委員（部会長）、今井委員、小原委員、川名委員、木本委員、佐藤委員、
小菅委員

※太字は会場での参加委員、それ以外はリモートでの参加委員

（2）事務局（都市戦略課）職員（4 名）

佐野課長、八木主査、相澤主任、江南担当

4 傍聴者

4 名

5 開 会

（1）会議資料の確認（事前配布資料及び当日配付資料）

（2）定足数について

部会委員 8 名中、7 名の出席により定足数を満たしているため会議が成立する
ことを報告

6 議 事

「ゼロカーボンシティよこすか 2050 アクションプラン」の見直しについて

事務局から議題について、概要や見直しのポイントを説明し、質疑応答を行った。
質疑応答の内容については以下のとおり。

■事務局（都市戦略課）

（アクションプランの見直しについて説明）

■松本部長

事務局からの説明について、これまで議論いただいた内容を次の審議会で報告するが、その最終確認となる。ご意見、ご質問等はあるか。

■小原委員

再生可能エネルギーの導入へ、意欲を持って取り組むという部分について。圧倒的に集合住宅が多い中で、家庭用の太陽光パネル導入を増やすのはなかなか難しいと思う。

ヨーロッパはベランダに設置ができることから集合住宅でも使える、プラグインソーラーというものが販売されている。電気代が3割から5割ほど削減できる、というもので、日本ではまだ合法でも違法でもない。猛暑やエネルギーの高騰で多くの人が買い始めている状況が現場としてはあり、市としてはこの新しい太陽光パネルの導入を促進するつもりはあるか。

■ゼロカーボン推進担当課長

前回も小原委員からご意見いただいたと思っている。調査したうえで、使えるものであればエコポイントの対象としてもよいのではないか、とエコポイントを主催する横須賀市地球温暖化対策地域協議会の会長よりいただいている。安全性等について、事務局の方で確認ができていない状況だが、なるべく前向きに検討していきたい。

■松本部長

現時点では、ベランダ用に限らずアウトドア用等のソーラーパネルや、ポータブル蓄電池というのは、今エコポイントの対象となっていない認識であっているか。

■ゼロカーボン推進担当課長

そのとおり。

■松本部会長

ありがとうございます。その他いかがか。

■今井委員

藻場について、5月ごろ黒潮の大蛇行が終息し、水温が少し下がったと思ったが、再び黒潮の大蛇行が始まった。海藻が孢子を出して根立つのは秋から冬にかけてですが、このまま水温が高い状況であれば、海藻が育ちにくい状況に変わりがない。

また、食害種であるアイゴやブダイ等がかなり生息している状態で、藻場の再生というのはかなり難しい状況にあると認識している。「点」での回復はできても、ha単位の「面」での回復はかなり難しい。

気になるのは、横須賀市で藻場面積の現状把握ができないと資料に記載されているが、基礎データはある。まずは横須賀地区と相模湾地区、東京湾地区の藻場面積を算出すると思う。そこをまず基本として、長井地区で再生を行う。

葉山地域で、水深15メートルのところでカジメ回復したとの事例を聞いたのと、逗子の子の水深10数メートルのところでカジメがあるという話を聞いた。長井や大楠は水深5メートルぐらい。10数メートルの水深がどういう意味を示しているかはわからないが、事例に倣ってそのあたりに移植してみるのも一案ではないかと考える。水深が深いところにアイゴやブダイの生息が少ないかもしれないので、1回実験してみることに意味はあるかなと思う。

アイクルの前の浅場造成でコアマモを移植して、増えている、という結果が出ている。空中ドローンで年2回ほど面積を計測しており、拡大していることは確かである。面積としては小さいが、広がっている実感がある。

一方、もともと走水に広く分布していたアマモがなくなってしまった。何が原因不明だが、海底環境の変化によるものと考えられている。もともと広く分布していたので、走水のアマモを回復させる価値はあると思っている。横須賀市域の回復ターゲットをもう一度検討した方が良いのではないかな。

■ゼロカーボン推進担当課長

藻場の面積については、引き続き調べてみたいと思う。

海藻植え付けの場所については、海岸を見て回った中で、できそうなところをピックアップした。水温の関係や魚による食害の関係等様々な要因でうまくいきそうになり、というご示唆をいただいたが、我々としても、場所にこだわるのではなく、様々なアプローチが必要と考えている。うまくいくものもあれば、自然環境の中でやらなくてもうまくいくところもあると思う。色々な試し方をしていかなければ、と考えている。

年次報告等で取り組みの結果を共有させていただきながら、知見を加え、少しでも藻場面積が広がるよう取り組みを進めていきたいと考えている。

目標の部分は、ha 単位の回復が難しいのではないかとご意見あったが、今までは200ha の部分が保全活動面積であり、市として活動してきた面積という考え方であった。今度は藻場の回復面積という結果として、3ha まで広げていきたいと考えている。なかなかハードル高いという認識しているところではあるが、当初の目標の部分にもあるとおり、野心的に少し高い目標を掲げることも必要かと思い、「藻場の回復面積 3ha」を目標として掲げさせていただいた。

どの方法が良いのか未知の部分があるが、一旦事務局としてはこの形でやらせていただきたい、と考えている。

■今井委員

小田湾のアマモに関して、神奈川県海洋技術高校の先生が主体となって再生活動を行っている。その先生へ連絡を取り、小田湾の状況について把握した方が良いのではないかと。

■ゼロカーボン推進担当課長

ブルーカーボンチームでは海洋技術高校の先生との認識があり、やり取りをさせていただいているところ。そういった方たちとうまく連携し、協力できるところは協力し、役割分担を行いたい。

■松本部会長

指標を回復面積 3ha とすることについて、それでも難しいというご意見でしたが、資料に記載の根拠に基づき指標を設定する。それでも野心的な目標ではあるが、そこを目指して取り組んで行く、と理解した。

エリアについては、模索しながら続けていただければと思う。部会より専門性の高い、ブルーカーボンの議論の場で検討されたい。

■ゼロカーボン推進担当課長

承知した。年次報告等で報告をさせていただく。

■松本部会長

藻場の面積については、聞き取りで得た数値ということでよいか。

■ゼロカーボン推進担当課長

論文をベースにしたものである。その論文の元の数値は聞き取りをしたうえで、算出を行なったものである。

■今井委員

論文ではすべてまとめられているが、すべて元の数値がある。県庁水産課に問い合わせれば確認できる。

■松本部会長

継続的に藻場面積の数値を蓄積することで、活用できる可能性があるので、検討していただければと思う。

■小原委員

藻場について、海水温が下がらないという前提で、海水温が高いところで生育している海藻を栽培する取り組みや考え方はあるのか。それとも、生態系が変わってしまうので、やらないということか。

■今井委員

九州の方では、亜熱帯地域の海藻を植える、といった試験をやっている。水産関係者は、生態系への影響についてまだそこまで考えていない。また、海水温に適した海藻を生育させることも、水産関係者はそこまで考えていないのが現状である。

今まであったものを回復させる、という考え方が依然強い。

生態系という言葉を使いますが、動物やバクテリア等の環境全体が変わらないと安定した形にはならない。そのあたりを心配している。

■松本部会長

環境を変えてしまうと、悪い意味で漁場全体が変わってしまうかもしれない、ということか。

その他、いかがでしょうか。

(特になし)

■松本部会長

削減目標について、新たな政策を実施していることを踏まえて、目標1年前倒しして、2029年度削減目標を46%とする。追加的な政策等の実施を含め、強い姿勢を示す、ということでしょうか。

(異議なし)

再生可能エネルギー発電設備・蓄電池への助成件数について、これまでのエコポイントの助成 1,000 件を継続し、追加で重点対策加速化事業の目標値 760 件を合計して、目標を上方修正するということだが、いかがか。

(異議なし)

藻場についてもよろしいか。

(異議なし)

促進区域についてもご議論いただいたが、温対法と建築物省エネ法で新たに促進区域を定めることができるようになった。今回のアクションプランの中には、設定を見送るが、今後も再生可能エネルギーの導入促進という中で、ぜひ議論を進めていただくことを考えているが、いかがか。

(異議なし)

先ほど、小原委員より話があったように、技術というのは変化して行くので、その技術の変化と影響を見ながら、横須賀市としてどのような再生可能エネルギーを導入して行くのが良いか、ということを経営して議論できればと思う。

スライド 11（現状の計画書と年次報告書）について、検討状況を計画書または年次報告書に記載するという理解でよいか。

■ゼロカーボン推進担当課長

そのとおりである。

温対法と建築物省エネ法の促進区域について、年次報告書で皆様に共有させていただく、もしくは当部会で引き続き、対象のエリアや再生可能エネルギーの種別など、具体的なご議論いただきたいと考えている。

■松本部長

年次報告書へ検討状況を記載する、ということと理解した。

当部会でも議論あったが、特に建築物省エネ法に関しては当部会や環境の側面だけでは考えられる話ではない部分がある。他の部署と一緒に考えられる場があると望ましいと思うため、その点ご検討いただけたらと思う。役所の中では横断的に検討することは難しいと思うが、現実的にはそこを調整しておかないと、後々トラブルになりかねない。

その他、全体として何かご意見あるか。

■今井委員

今日の議題とは異なるが、日産の追浜工場について、工場閉鎖が予定されている。横須賀市として、工場跡地に省エネに向けて何か誘導する方針などがあれば伺いたい。大きな工場がなくなれば、市域のエネルギー使用量に大きな変動が生じると思っている。

■ゼロカーボン推進担当課長

市が持っている情報は、皆様と基本的には同じである。工場跡地の利用について、一義的には日産が考えることと思っている。仮に、工場跡地に企業を誘致する、何かを作る場合は、環境に配慮した施設、建築物そういったものを求めることが必要だと考えている。

■松本部長

市域の二酸化炭素排出量の求め方で言えば、日産の工場からこれだけ排出されている、直接的にどのくらい、というのはかはわからない、という認識で合っているか。

■ゼロカーボン推進担当課長

そのとおりである。県全体の排出量には影響するとは思いますが、横須賀市域に直接影響するものではない。

■松本部長

その他、ご意見あるか。

■小原委員

モノクロームという、屋根一体型の太陽光パネルを販売している会社がある。屋根一体型の太陽光パネルは、通常の太陽光パネルと異なり、固定資産税がかかるという理不尽なデメリットがある。それゆえに設置が進まない様子である。モノクロームは横須賀市の企業であり、横須賀市の地域の産業にある可能性があるため、条例等で固定資産税がかからないようにはできないか。

■ゼロカーボン推進担当課長

モノクロームが屋根一体型の太陽光パネルを作成していることは、承知している。ただ、固定資産税がどのような状況になっているか、通常の太陽光パネルとの相違点について、詳細を持ち合わせていない。

法律との兼ね合いがあるため、現時点で何ができるかをはっきり申し上げることは難しいと考えている。課題認識については承知したため、調べたうえで何ができるかを考えたいと思う。

■松本部長

その他、ご意見あるか。

ご意見なければ、皆様からいただいた意見を踏まえて、事務局には必要な修正をしていただき、パブリックコメント手続きに向けて作業を進めてもらいたい。

また次回の審議会の方で、前回および本日の部会の報告を行う。それらの資料の作

成も、併せて依頼する。

それでは以上で本日の議題については、終了します。

その他について、事務局からお願いします。

■事務局

(連絡事項の説明)

■松本部会長

その他についてよろしいか。

(特になし)

それでは、第21回横須賀市環境審議会温暖化対策推進部会を終了する。

以上